

PART3 社長交代の新潮流

後は任せた! 新たな挑戦が道拓く

社長の地位をあっさり譲り、自分は新たな挑戦を始める。
勢いのある企業の経営者で、そんなケースが増えている。
社長は出世競争の終着駅という牧歌的な時代は終わりを告げようとしている。

「昔のように専務でもよかったんだけど、社長をやった後ではそうもいかなかったので会長という呼称にしました。世の中の見方に合わせた部分が大きいですね」。音楽ソフト大手で若者に人気のある歌手を多く抱えるエイベックス。同社を率いてきた松浦勝人氏(53)は6月22日付で社長から会長へと立場を変えた理由を苦笑しながらこう答えた。

ただし会長といっても、実際の役割は日本企業における一般的なイメージ

のそれとは一線を画すものだ。松浦氏が担当するのはエンターテインメントとテクノロジーを掛け合わせる新規事業の創出など。新社長の黒岩克巳氏(46)は既存事業をけん引する。最後の経営責任を引き受けるため、CEO(最高経営責任者)は続ける。

30年前に創業して間もなくから、松浦氏が専務としてモノ作りに注力し、年上の依田巽氏が社長を務めるという役割分担で成長してきた。松浦氏は「も

ともと自分は経営にも肩書にも興味はなく、モノ作りに専念していたかっただけ」と振り返る。そのすみ分けが2004年に依田氏が経営方針の対立によって辞任したことで突然崩れ、事前準備がないままに松浦氏が社長を引き受けることになった経緯がある。

それから14年。「かつてなら10~20年続いた事業も、今は3~5年しか持たない時代になった」(松浦氏)。著名人である松浦氏は若手経営者との交流も

社長を譲り 新規事業を担当

安室奈美恵も小室哲哉も引退してロゴも変わり、平成も終わる。エイベックスにとって大きな節目でイノベーションを創出する新たなポジションに就こうと思った

エイベックス 松浦勝人

会長CEO

[まつうら・まさと]

1988年創業。91年専務、2004年社長。18年から現職。

全速力で走り タスキを渡す

2008年の開業から10周年を迎え、いい節目だと思って託すことにした。経営は駅伝のようなもの。全速力で走り切った次のリーダーにタスキを渡すのが理想

ライフネット 生命保険 岩瀬大輔

会長

[いわせ・だいすけ]

共同創業者の一人で2013年社長就任。18年6月、代表権のない会長に退いた。



多く、様々な情報もたらされる。「エイベックス社内にその情報を伝えて事業化し、企業価値を向上させる役割を果たしたい。今の年齢ならまだそれができると思う」と松浦氏は意気込む。

社長という肩書にこだわらず、次の領域に挑戦する。そんな決断をする経営者が増えてきた。

ライフネット生命保険創業者の岩瀬大輔氏(42)もその一人。今年6月、社長を退き代表権のない会長に就いた。後任の森亮介氏は34歳だ。岩瀬氏は7月から香港に本社を置くアジア最大級の生命保険AIAグループの執行役員として、テクノロジーを使った事業の責任者となる。

「自分よりいい人間がいる時が社長交代のタイミングだと思った。自分も前会長の出口(治明)さんからきれいにタスキを渡してもらったから。仏アクサほどの大会社でも今のCEOは43歳で着任したのだから、我々規模の会社で30代で社長ができないわけがない。できないというのは、年齢を理由にチ

ャンスを与えていないだけ」と岩瀬氏は屈託なく話す。

12年に社長に就任して以来、ヤフーのスマートフォン対応を一気に推し進めてきた宮坂学氏(50)も6月、社長を退いて代表権のない会長になった。今年1月に設立したヤフーの100%子会社Zコーポレーションの社長として、「ヤフーでやれなかったこと、やらなかったことを探していく」という。

ジャパネットたかたの創業者、高田明氏(69)が社長職を息子の旭人氏に譲り経営の一線から退いたのは、15年のこと。昨年、経営難に陥っていたサッカーのV・ファーレン長崎社長に就任するや、見事経営再建とJ1昇格を成し遂げてみせた。

原理原則に立ち返る

年齢、在任年数。それらは確かに考慮すべき属性だ。だが、企業の置かれる状況がそれぞれ違う以上、経営トップとして最適な人物であるかを直ちに決めるものではない。

PART1でキヤノンの御手洗富士夫会長CEOが語った通り、社長や役員というポジションは、そもそも企業をうまく運営していくために存在するものだ。時代の変化のスピードが増す中で企業価値を高めることを考えれば、変化に即応できる最適な人材を選び続けること以外に、合理的な答えはないはずだ。

企業価値の最大化という自らの使命を真剣に考えるトップほど、恬淡として地位にこだわらないのは、当然のことだろう。また、使命を果たしたと思ったら次の領域に挑戦の場を広げること、個人としてもさらなる成長につながることになるはずだ。企業において新たな人材を発掘する新陳代謝のサイクルも回りやすくなるだろう。

どんなカリスマ経営者もいずれ衰えることは避けられず、普通の経営者ならばなおさらだ。その時、我欲に負けず引き際をしっかりと見極められるか。その一線を守ることが、「老害」と呼ばれることを避ける唯一の処方箋だ。 **ND**

新しい挑戦は 新しいリーダーで

ヤフーは新しいテーマを掲げるべき時期に来ている。新しい挑戦をする時は新しいリーダーシップで行うのが適切だと考えた(社長交代発表の記者会見で)

ヤフー 宮坂 学

会長

[みやさか・まなぶ]

2012年ヤフー社長就任。18年6月に代表権のない会長に。

事業継承の覚悟 大それていない

目標を達成できなかったら退くと言っていたが、逆に達成できたから辞めてもいいと。事業継承の覚悟って、大それたものではない(2017年のインタビューで)

ジャパネットたかた 高田 明

創業者

[たかた・あきら]

1986年カメラ販売の「たかた」設立。2015年に社長を長男に譲り退任。